

FAX通信12号で君津市の持てる財産をもっと活用しようと提案いたしました。この財産とは土地、資産ではなく、君津市が育てて来た大自然の豊かさ、広さでもあり、季節、風物、人情、歴史、伝統文化であります。

君津市は市原市について県下で2番目に広い市であります。最新鋭の製鐵所があり、アカデミアパークがあり、アクアラインを通じて首都圏三千万人へとつながっている、すばらしい立地条件を持つ街であります。そのすばらしい街も活用次第で繁栄し、あるいはなぜか荒廃してしまいます。繁栄の要素とは、先見性、勇気、自信そしてよき仲間たちがいるからであります。

今日の不況は、いわば世界の中では他の追従を許さない資産(貿易黒字・個人資産)を持ちながら、バブルの後遺症による不安感不況であります。本音で仲間達と助け合えない不況であります。

仲間達が助け合い、分かち合って共存共栄して行くためにも、それぞれの会員が何を育て、何を作っているかをまず知りたいものです。また知ることによって交流、信頼、活用の輪が広がるものと思います。こうした考え方により会員内外との経済交流、発展に役立つような標記の(仮称)産業展示会を紙上で提案し、予め会員の方々にひとつの夢と希望を持ってお考え頂きたいと願っております。

また、君津市もこのような提案に対して積極的にご参加いただけるようであります。就任当初申し上げました様に、君津市、JA、新日鐵、あるいは観光団体等と一緒に相乗効果を上げられる様な次年度計画を検討しており、その一つが産業展示会といえます。

平成15年3月に館山道のインターチェンジが開通する予定です。この三直インターはジャンクシヨンのな要素を持ってありますので、君津へ多くの人達が流入して来ることが予想されています。こうした来街者をうまく取り込むビジネスのきっかけとしたいものです。



翌年の11月、第1回きみつ産業フェアが開催される